

ミノハギ科 キカシグサ属

# アメリカキカシグサ (アメリカきかし草)

*Rotala ramosior* (L.) Koehne

## 自生環境

湿地、水辺 など

## 原産地

北アメリカ～熱帯アメリカ

## 予想される被害



新しい外来種で、市内でも少しずつ増加傾向にあります。水田や湿地に生えるため、今後の増え方によっては、希少な水生植物の生育に影響を与えるおそれがあります。

## 特徴

- ☆ 1993年に横浜（神奈川県）で見つかった以来、国内各地から記録が相次いでおり、市内でも2014年に関宿台町地区で初めて確認しました。次第に数が増える傾向にあるため、今後市内の他の地域でも発見されるかもしれません。
- ☆ 水田など湿った場所に生え、30cm くらいの草丈になる1年草です。ただ環境によっては10cmに満たないようなコンパクトな状態で開花・結実することもあります。葉は細長い楕円形で、先は丸みを帯びています。葉のつけ根は茎に向かってだんだん細くなり、ホソバヒメミノハギのように耳状にはなりません。秋が深まって気温が下がると、鮮やかに紅葉します。
- ☆ 夏から秋にかけて、葉のわきに薄いピンクの花を咲かせます。花は1枚の葉に1個ずつつきます。がくは鮮やかな赤色で、花が散った後もそのまま残り、その中で果実が成熟します。

## 市内の分布状況

2014年に関宿台町地区で初めて確認しました。その後、少しずつ増加傾向にあります。



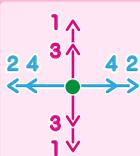
## 関宿台町周辺

## 葉のつきかたは十字対生

葉のつきかたを表す言葉で、2枚の葉が向かい合わせになってつくものを対生（たいせい）、1枚ずつ互い違いにつくものを互生（ごせい）、1か所に数枚ずつつくものを輪生（りんせい）と言います。アメリカキカシグサやホソバヒメミノハギは対生ですが、上の葉が下の葉と垂直の向きになるようにつき、上から見ると十の字になって見えます。このような葉のつきかたを「十字対生」と言います。



葉は2枚ずつ向かい合わせにつく



赤方向 → 青方向 →  
赤方向 → 青方向 → …  
という感じで葉がつき、  
上から見ると葉が  
十の字に重なっている



花びらの色はホソバヒメミノハギよりも薄い

花や果実は葉のわきに1つずつ

果実はがくに包まれたまま成熟する



寒くなると鮮やかに紅葉する

葉は長さ1~3cmで細長い楕円形



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

